

様式 2

平成27年度 安曇野市食育推進会議（第2回） 会議概要

- 1 審議会名..... 安曇野市食育推進会議（第2回）.....
- 2 日 時..... 平成27年11月16日 午後1時30分から午後3時00分まで.....
- 3 会 場..... 穂高健康支援センター.....
- 4 出席者..... 本郷会長、堀内副会長、中田委員、豊田委員、山本委員、宮澤委員、丸山委員、阿部委員、下里委員、嶋田委員.....
- 5 市側出席者..... 宮下保健医療部長、宮下健康推進課長、高橋センター長、久保田係長、竹澤管理栄養士、小松管理栄養士、太池歯科衛生士、長田管理栄養士、小川管理栄養士、伊藤管理栄養士.....
- 6 公開・非公開の別..... 公開.....
- 7 傍聴人..... 0人..... 記者..... 0人.....
- 8 会議概要作成年月日..... 平成27年11月24日.....

協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
 - (1) 開 会
 - (2) 保健医療部長あいさつ
 - (3) 会長あいさつ
 - (4) 協議事項
 - ① 安曇野市食育推進計画（第2次）について
 - ② 平成27年度食育推進事業進捗状況・平成28年度食育推進事業計画について
 - ③ 弁当の日について
 - ④ その他
 - (5) 閉会
- 2 審議概要
 - ① 安曇野市食育推進計画（第2次）について

(会 長) 安曇野市食育推進計画（第2次）について事務局より説明をお願いします。

(事務局) 安曇野市食育推進計画（第2次）についての説明

(会 長) 安曇野市食育推進計画（第2次）について、ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。

(委 員) 食育推進計画（第2次）の概要版に食育推進のためにめざすことで4つ指標を出してありますが、どの位のサンプル数でこの数字が出ているのでしょうか。それと、家族や仲間と一緒に食べようというのは、地域差が結構出るのではないかと思いますので、その点をお聞かせください。

(事務局) アンケートは、一般の方に1,600件、園児に408件、小学生に562件、中学生に425件配布しています。回収率は、一般45.4%、園児80.1%、小学生98.9%、中学生96.5%、全体で2,020件の方に回答していただいて、回収率67.4%になっています。地域差については、データではまとめていないので、お答えができません。

(委 員) 後追いで出ますか。

(事務局) 抽出方法としては、地域が偏らないように抽出しているので、調べれば出ると思います。

(委 員) あづみのFMを聞いていたら、学校給食の関係の放送がありました。今、私は茅野に住んでいるのですが、向こうのFM放送も同じ放送をやっています。諏訪地方は全部小中学校も保育園も自園自校給食なので、放送の枠がすごく大きいんです。給食センターじゃないので、その学校の特徴がすごく色濃く出て、栄養士の先生や学校給食の担当している子どもたちの声まで放送に入っています。放送を聞いて思ったのは、例えば北部学校給食センターではつぶら揚げを出していますが、他の給食センターではつぶら揚げは出ていないですね。つぶら揚げに含まれている栄養価は結構高くていいなと思っているのですが、地域の食材を使っていることは大事なんだけれどもその地域によって食べているものの差があるのではないかと思います。朝食を食べた食べないというのかなり差が出るのではないかと思います。地域差があるということは、いい方向で地域差が出ていけばいいのですが、どここの地域は栄養価があまり高くないものを食べているとか、逆に栄養価が低い物や悪い物を食べてるといような分析をできればやった方が、市全体として分析する方向性を定めるのに、食育の方の観点からいけば何を市民は食べているのかと、学校だけでなく子どもたちはどういう食べ物に関心を持っているのかということ傾向として朝食だけのことですけど出てくるのかなと思います。私は朝食はパンで、昼食と夕食は日本食、ご飯ものにしてます。ちょっとアレンジを加えた方がいいと思っているので、そういう風にしてはいますが、皆さんそうではないという

ことは分かっています。朝食を抜いたり抜かなかったりということで私自身の経験で朝ごはんを食べていない時は一日の活動量が減る、ダウンしてしまうという意味では、朝しっかり食べるというのは大事だなと思います。最近マスコミなんか聞いていると朝食をあえて抜いたほうがいいというようなことをあからさまに言っています。それよりも昼食を食べるというような言い方をして。ちょっと極端かなと思うのですが、そんなこともあるので朝食を食べるということは非常に大事な事だし、いい意味での地域間の差をなくしてレベルを上げるということも大事かと思うので、ぜひそのような分析の仕方をしてもらって、データをせっかく出していただいたのでさらに詳しく安曇野市の実態をみれたらいいなと思いました。

(委員) 先日講演会に行きましたら、完全米飯給食というのが出ていました。全国的に増えているということでした。それからアンケートをとった結果、朝食にパンを食べている人が70%だったそうです。安曇野市は80%と聞いています。パンと米飯の栄養価の差もありますし、主食が変わるとおかずも変わります。データからいって朝食がパンだったらお昼はごはんの方がいいのかなと思いましたし、歯に影響を与えるのも米飯の方がいいんだそうです。血糖値もパンとごはんを比べた時にパンの方は急激に上がって下がりますが、ごはんの方は徐々に上がって低血糖まで下らないと言っていました。そういったことからできたら完全米飯給食がいいのかなと思います。安曇野市はお米の産地なので、お米の消費という面でもお互いのためにいいんじゃないかと思いました。

(委員) 私も今の意見に賛成です。私は男の子を3人育てていて、小麦粉に対して抵抗があります。パン食というのはほとんど我が家ではないんですけども、やっぱりパンを作る過程の中で色んなものが入っているということがあります。そこが表示として見えない、自分も知識がないから分からないということで、実家で作ったお米の方が安心だという単純な考えではあるんですけども、母として安全なものを与えたいということがありますので、加工物よりも地産地消の物を買ってくるっていう市に住んでいるならば当たり前のような風潮を作っていくのがいいと思います。

(会長) 地域差が分かるようなアンケートを作っているのですか。

(事務局) この時は評価をするためにアンケート調査を実施しましたが、今後はそういった調査をする予定は特にありません。

(会長) 普通のアンケートで地域的に差が出るのか、聞き取りのように細かくやっついていかないと一般的なアンケートではおそらくそんなに差が出ないような気がしますが、いかがですか。

(委員) その家族の在り様によっても、核家族なのか2世代3世代で暮らしているのかということでもかなり差はあるかと思います。朝食の内容については、3歳児健診の時に朝食アンケートとってますよね、そこでパンなのかご飯なのか、食べているのかいないのか、かなりの率で把握はできますが、そのまま小学生中学生になるとどうかかなと思います。

(会長) とりあえず過去のものを見ていただいて、それがあればお願いします。

(事務局) 乳幼児健診では朝食調査をやっているのでも、そこを見直すことで調べてみたいと思います。

②□平成27年度食育推進事業進捗状況・平成28年度食育推進事業計画について

(会長) 平成26年度食育推進事業予定について事務局より説明をお願いします。

(事務局) 平成26年度食育推進事業予定についての説明

(会長) 平成26年度食育推進事業予定について、ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。

(委員) 情報提供パンフレット、とてもいいと思いますが、安曇野市は他の市町村に比べて糖尿病の患者の割合が多いということですよ。その一つは特有のお小昼に原因があると思います。せっかくこのパンフレットは安曇野市だけで作っていますから、後ろの方にも農作業やってるようなポーズがあるので、お小昼入れてもらった方がいいと思います。私は安曇野市の生まれではないので、ここに来てなんだそれという感じでしたが、ここではそういう言葉が成り立つ習慣があるので、それによってこういうことが起きていると思うので、ぜひ市だけで作ってるわけですから入れていただければと思います。間食で、10時のお茶、3時のお茶と、普通はそんな感じですが、本当に食事と同じような感じでパンを食べたりとか、農作業するので、それなりに食べないと疲れてしまうから。昔はよく働いてたからいいんですけど、いまだにその習慣だけが残ってて、お茶だけじゃなくて小さい食事を普通に食べる習慣になっているので、間食の量はとにかく多いんですよ。

(会長) 長野県全体で男性の血糖値というは、全国で4番目に高いんです。ここだけじゃないんです。人間ドック学会で分かっている、私は信大病院で生活習慣病予防外来という、家族で来ていただくというのをやっているのですが、今まで数年やって46~48家族150~160人来ています。親と子どもを見ると、同じ生活習慣病を持っている親と子が72%、親が持っていれば、子どもも持っていると、かなり遺伝的なものがあるんです。それで糖尿病の2型は遺伝なんですよ。遺伝の素因のある人がそういった生活をすればよけい発症する可能性は高い。安曇野市だけではなくて松本市も。安曇野市の高い人が60:40、松本は50:50、筑北村80:20、私の知っている範囲の市町村では、筑北村の方がもっとすごいんです。お小昼があるのか知りませんが、実際に高くても脳血管障害とか動脈硬化性の疾患を発症しているかどうか問題だといつもお話ししてきたのですが、安曇野市の方で実際に糖尿病を発症している人予備軍がどの位、多分血糖値とHbA1cだけで言ってるんじゃないですか。

(事務局) 安曇野市の場合、お小昼という食文化は前から問題だというのはあって、菓子パンとかものすごくたくさん売っています。それを小さいお昼なので、間食として食べるとゆうのがあって、問題として捉えているところです。血糖値が高いというのは長野県の中でも安曇野市はトップ

クラスに高かった。前はもっと高かったんです。ここ暫くは非常に問題だということではいろんな周知とか勉強をして下がってきたのですが、うんと悪い方たちが多んじゃなくて予備軍といわれる方たちがものすごい数いて、その方たちが血糖だけじゃなくて血圧と脂質とみんな持っているの、そこから脳血管疾患が発症される方が非常に多い。そこが問題になってくるところで、糖尿病そのものの数からいうとすごく多いということではなくて、ベースに3つ位持ってる方が非常に多いので、そこから重症化のところ結びつく方が目立っているというところが問題なのかなと考えています。

(会 長) 長野県全体の問題として私は考えたいと思っておりますが、全国4番目に血糖高い。中学生のデータを見ても中学生で3,500名以上検査してありますが、血糖高い人結構いるんです。松本市のデータをお話すると、中学生小学生で3年ほどやりましたが20%以上は高血糖です。私が専門にやっている県内3つの中学校、松本市の信大の前にある中学校では25%高血糖という年が10年間に4回ありました。いろんなことが原因になっていると思うのですが、2型の糖尿病というのは遺伝要素がかなり強いので、そういったこともかなり考えないといけません。そういった人がちょっと量を多く食べると発症しやすい。いろんな遺伝があるんじゃないかと思えますけども、いずれにしてもそういったことが分かっているのであれば、それをどのようにして解決するのか、食事だけじゃないんですよ。運動も一緒にやらないといけません。生活習慣も当然。最近よく言われているのは、小さい頃からやるのが何がいいのかというと、動脈硬化性の脳血管障害とか心臓病、それから発症する認知症。若い頃から認知症を予防できると最近言われてますけども、脳卒中から認知症になる人も結構多いものですから、そこら辺を子どもの頃から、特に家族歴のある人、お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんが血糖高い、あるいは血圧が高い、脂質が高い、みんな遺伝なんです。生活習慣病というのは、個人の生活が悪くて発症するんだらうけども、それにはそれぞれ程度があって遺伝歴の高い人はちょっと位でなりやすいといったことを頭に入れて行動しないといけない。生活習慣病の予防外来に来る家族を見て分かりました。子どもも太っているんですけど、お父さんも太っているんですよ。兄弟も太っている。お母さんも太っている人もいます。血圧が高ければ子どもも高い。脂質もお父さんが高ければ子どもも高い。こうなっている人がかなり多い。個人の問題ではなくてファミリーの問題という捉え方もしていただきたいと思います。

(委 員) 資料の写真と一緒に給食を食べながら、口の動きを見せてもらっている子どもは、小学校何年生ですか。

(事務局) これは保育園の年少さんか年中さんだっと思います。

(委 員) 手前にいる子、箸を持っているんですか。

(事務局) わりと保育園の方では、年少さんから箸を持ちましょうということでご指導いただいているようです。私たちとしては、マナーもとても大事なんですけど、子どもたちが自分で食べられるっていう自信をまず身に付けていくところを大事に考えています。

(委 員) 箸の持ち方なんてどういう風に指導に入っていますか。

(事務局) 保育園ではやっただけです。

(委 員) 50代は箸の持ち方が下手な世代なんですよ。親から教えてもらっている子はいいんですけど、教えてもらっていない子も多くて、クラスの中で3分の1は下手でしたね。だから上手に食べられないんですよ。だから口の動きもそれに合わせて摂食障害ですよ。硬い物は食べられないとか小さい物はつまめないとか箸で切るということもできない。フォークとナイフがなかったら食べられないっていうようなことはあった。だから今の世代の子の方が進んでいるかもしれないが、心配することは、歯の話なんですけど、歯に至るまでにごはん、おかずを食べる手段に箸をどの位持ってるのかなっていうのに関心があります。美味しくごはんを食べる時は美味しくごはんを食べたいじゃないですか。箸を上手に持てないと美味しく食べられていないなと思います。そうするとごはんの質もおかずもそうだけど、自分から食べる姿勢が箸の持ち方一つですごく違うなというように関心持っています。今丁度、箸を持たせていると聞いたので、ただ持つんじゃなくて持ち方ですよ。正しい持ち方ありますよね。そこのとこがきちんとできてれば、生活習慣病の改善にも大きく役立つと思う。

(事務局) 保育園に入る前の健康推進課でも市民全員ではないですけど、教室とか開催した時にお箸の持ち方を伝えたりしています。保育園にも栄養士いますので、食育指導という形で入ってお箸の持ち方の練習をしていると思うので、またお伝えしたいと思います。

(委 員) 8月の竹下先生をお呼びした講演会ですが、広報見た時に350名限定と見た。私は入れないと嫌だと思って早く行ったんですけど、結果的に111名、あまりにも少なくてガッカリしたんです。PRが足りないですよ。せっかく竹下先生をお呼びしてPRが足りないのと、前回の会議の最後にぜひ出てくださいという話でしたが、必ず出てくださいという話ではなかったと思うんです。都合のある方もいらっしやと思いますけど、当日会場に行きましたら一番前のところに委員という感じで椅子があったんです。10幾つ並んで、結果的に座ったのは、4名来ているのですが、座ったのは2名。しかも私のところは名前が書かれているので、そこを空けるわけにはいかないなと思って、座ったんですけど、個人的にはあの位置には座りたくなかった。ああいう体制をとるのであれば、必ず出席してくださいとか、出欠をとって来る人数だけ用意するとかいう形をされた方がいいと思います。10幾つもあって2人しか座っていないんだと、逆にイメージ悪いです。行ってあれだったの

で、もうどうしようもなかったですけど。

(委員) あれは座りにくいです。一番前は。私は2列目に座りました。

(事務局) その辺の配慮が出来ずに申し訳ありませんでした。

(委員) 別にいいんだけどね。いい話だったし。本当にいい話で、泣かせる話だったね。

(委員) 妊婦歯科検診、今のところのデータとしては、実施率35.6%という話がありましたが、私としてはかなり低いと思うんですが。

(事務局) 私たちの方で35.6%でまずまずかなと判断させていただいたのは、他市町村の状況と比較しまして、安曇野市はだいぶ受診率の方が高かったんで、そういった形でみえています。ただ来年度はより一層受診していただけるように今も実施しているのですが、母子手帳交付時に妊婦歯科検診についても周知をしていくっていうのと、その必要性というのを周知していかなければいけないとは思っています。

(委員) これは例外の方なんですけど、先日来た方で10日後に出産しますって方が、歯が痛いつて来られたんですね。受診券持ってますって見せてもらったのが、4月何日に交付になっていたんです。半年間があるんですよ。半年の間に来れる時あったでしょって話なんですけど、その人が来る気がなければいくらどうのこうの言ってもダメなんですけど、その前に来てればまだ処置ができた。先日来て今日も洗浄したんですけど、それ以上は処置ができないので、歯に穴を空けた状態で出産に向かうしかないんですね。先程の話で他の市町村に比べて35.6%が高いという話がありましたけども、あまりこういうこと言いたくないんですけど、他のところは私たちに入る報酬が多いんですけど、私たちの報酬を減らして妊婦さんの負担が一切ない形にして導入してるんですね。ですから重要性もですけど、あまり良くないかもしれませんが、とにかく無料なのでどうですかっていうのをアピールしてもらった方が、私たちが導入決めたのもそこだったんで、患者さんにたかが500円でも負担があると足を運びづらいけど、無料となると来るんじゃないかっていうことで私たちの報酬を減らして安曇野市でそういう導入をさせてもらったので、重要性もですけど、こここのところはアピールしてもらった方がもっと高くなるんじゃないかと思うんです。

(事務局) ありがとうございます。実際に無料でやっている市町村は他にもあります。そういった中でも安曇野市、妊婦さんたち受診してくださっている方だと思えます。ただせっかくあるものですし、お母さんだけでなくお子さんの健康にも繋がっていくことですので、より周知に力を入れていきたいと思えます。

(委員) 健診日というのはどの位、何回位やってるんですか。

(事務局) 指定された医療機関にご自分で予約していただいて。

(委員) いつでも、土日でもいいんですか。ていうのは妊婦さんて多分お勤めされてる方がだいぶいらっしゃると思うんですね。休みっていうのは月曜日から日曜日までそれぞれみんな違いますよね。月曜日から日曜日まで好きな時に行ける体制になっているのかと思ったんです。自分の立場だったら仕事休んでまで行けないっていう、赤ちゃん大事だけれどもやっぱり生活の方が、務めていると責任がありますからね。その点はどうなんでしょうか。

(事務局) 歯医者さんの診療時間内に予約をして受けていただくって形にはなっています。

(委員) じゃあ後は本人次第ですよ。本人の気持ちということになりますよね。意志ですよ。いかに自分の体を大事に思っているかどうかっていうところでですね。

(委員) そうです。ですが日曜は申し訳ありません。私たちほとんどやってませんので、日曜日は無理なんですけど、日曜とどっかは休みあると思えますし、さっき話した方は半年間あるわけですから、半年の中で1日は作れると思うんですよ。

(委員) 自覚の問題ですね。いかにその自覚を植え付けるかっていうことですね。

(事務局) あと実はせっかくやったものをきちんとお返しするっていうところもあって、今8月以降の出産のお母さんたちに健診を受けたかどうか、受けてどうだったか、もし受けなかったとしたらどうして受けなかったかということをして全数アンケートをとっています。それで例えば今まだ30件ちょっとしかないんで、もう少し数を集めてこなければいけないんですけど、例えば主治医が松本にあってそこで見てもらってるとか、いろんな形でここには来ないんだけどきちんと受けている方もいらっしゃるんで、そういったことを含めながら、例えばどういう体制であれば受けやすいのかとかいろんなことを少しまとめていってせっかく先生方にご協力いただいて無料でやっているというすごい売りがあるので、どういった形であれば皆さんが受けやすいかということをもとめていかなければいけないと思っています。そういった意味では全然関心がないのかなと思ったんですけど、実際は例えば松本の主治医があってこれを使えなかったとか、例えば現在治療中でこれは使えませんか、いろんな方がいらっしゃいます。絶対受けないって人もいらっしゃるんで、そこは問題になってくるんですけども、思ったよりも少し関心高いのかなと思ってみているのですが、ただ問題になるのは先生が今おっしゃっていたような本当に関心がなくて、いよいよになってどうしようみたいな方たちがいることは事実ですから、そこを何とか考えていかなければいけないと思っています。

(委員) 少数だとは思いますが、フッ素とかフッ化物に対する安全性はどうなのっていうお母さん方がちょっと多くなってるのかなって私の感覚なんですけど。その辺についてしまじろうだとかミッキーとか商品を出して歯科の指導をされていたんですけど。その商品使って大丈夫って質問があった時に市のやり方としてやってらっしゃると思うので、そういうお母さんたちに何という風にお話し

ていくのかなというところに関心があるのですが。

- (委員) 保育園の年長児から小中学生が今フッ化物洗口していただいています。必ず年度初めに説明のお手紙がっていて同意書をいただいて、それからやっていますので、同意していただかない方には無理してっていうわけではないですから。いちおそこで通知もいってますし、分かっていると思うんですけど。日本の厚労省がという薬害エイズとかいう問題もありましたし、ちょっと厚労省がいつって言うてもどうなのっていうのもあるんだと思うんですけども、WHOが1960何年に3回、主だったものは2回ですけども、世界に向けてフッ化物を利用した方がいいって言うことは言っています。日本の厚労省だけが言ってるんじゃないでWHO自体が言っていますので、安全です。今現在は薬物を水の中に入れて溶かしてっていう風にやっていますが、一番最初にそういうことを始めたのは天然の水の中にフッ化物が多く入っている地域の人たちが、結果的に虫歯が少なかったって自然の現象から始まってますので、確かに今薬物を故意に入れてはいますけども、元々始めたのはそういう自然の現象から分かってきたことでやっていますので、問題はないです。先程も言いましたけど、同意書はもらってやっていますので、市が勝手にやっていますことではありません。
- (委員) 私も健診を受けながら感じてきたことではあるんですけども、2歳児、3歳児の時に商品を出しているって、これがいいですよって言うことに対してどうなんだろう、フッ素入ってますこれがいいんですよってことを言っているってのはどうなんだろうと。
- (事務局) 私たちも市販のフッ化物の入っている歯磨剤ですとフッ化物がきちんと入っているかということがメーカーさんの方で提示していただいていたので、一例としてこういうものがありますよって情報提供になっています。それを必ずこれを使ってくださいってことで提示はしていませんので、参考にしていただくていうので提示しています。私たちが一番伝えたいのはフッ化物を利用していくところを皆さんにお伝えしているつもりではあるんですが。
- (委員) フッ化物を利用していくのを前に出してと言われてしまうと歯磨きの仕方ってところが薄くなってしまったり、我が家にもあるんですが、仕上げ磨きとか寝せてやりますけど、その時に飲んでいってしまうって、そういうことの気持ち悪さがあります。
- (事務局) いちおそう言ったことも考えまして歯磨き粉で汚れを落とすのではなくて、歯磨き粉はフッ化物を利用するためとして使ってくださいねということで、仕上げ磨きの後につけてもらってさっと塗ってうがいをしてくださいねというやり方も合わせてお伝えしておりますので、そういったところも考えてはいるところです。
- (事務局) 血液検査の関係で健康推進課と学校の養護教諭と栄養士で勉強会を開催して、市の健康課題を一緒に考える中で同じ方向を向いていきたいという思いがあるのですが、それについて今日は養護の先生からご意見をいただけるということになってきたかと思っておりますのでお願いします。
- (委員) 勉強会は大事だと養護教諭も考えております。ただ血液検査の内容についてもこれでいいのかということで、血糖をやっていないんですよ。血糖をやるのであれば食事をとらないで検査をしなきゃいけないとか、そういうことも出てくるし。完全に希望者となっているということで、全員が関与しないので、保健指導を学校の中でやっていいのだろうかというのが1つ。個別にやっていただけなら本当に学校としては有難いのですが、個別にやるとしても家庭の問題があって、保護者の方の理解がない、あまり希望されない、お医者さんに行くとか食事でなんとかしてくださいってのもお家の方のとり方でお医者さんに相談に行かなかったりする。学校医の先生にデータ見ていただいてご指導いただいた上で、学校は家庭に通知を出しているのですが、そういったところでも希望していないとお医者さんに相談に行くこともないということがありまして、希望者というところで全体の指導として学校の中でやれるかなというところで養護教諭も悩んでいます。ただ、勉強してこの血液検査の結果からこういう生活をしていくといいという形で、私たちも学校の中で保健だよりとか保健指導をやっていくことは大事なので勉強会はやっていってもいいんじゃないかなと養護教諭の会ではそんな話になりました。ただ指導のやり方というのを少し考えていくのも大事なかなと希望者ということもあるので、有難いことなんですけど。
- (事務局) 勉強会が開催できれば、その中で一緒に意見を出し合っ、同じ方向を向いてやっていきたいなというのがあります。私たち、全部は入れないと思うんですよ、ちょっとお手伝い出来るかもしれないんですけど。それぞれに事業はやるけどもバラバラにやるのではなくて同じ方向を向けたらいいなという気持ちでいるので、まず勉強会を一緒にできればと思います。ありがとうございます。
- (会長) 今の話に追加ですけども、松本市では今年の春から中学2年生、2200名全員にHbA1cと尿酸を普通の検査の項目に加えます。私どもがサポートしているのですが、200~300万のお金を出して、中学2年生全員に。血糖値高い人が安曇野市も多いんですけど、それを大人から見ているのは遅い、それから尿酸というのは生活習慣病を現している指標です。痛風だけではないんですね。生活習慣病を現しているカロリーオーバーの指標です。松本市で3年間、子どもの元気アップ事業をやって同じことが分かり、この春から中学2年生全員にやります。希望者だけでもない。その辺は安曇野市も今後考えていただければと思います。採血の量は変わらないので、項目を増やすだけです。血糖値というのはその日食べてきたか、前の日に暴飲暴食したかでだいぶ変わるんですが、HbA1cというのは過去1~2か月の血糖値の平均を現すんですよ。ずっと節制してないといい値が出てこない。貧血の検査でヘモグロビンというのが入ってますが、それをやればついて出てくるんですね。だから全然難しいものではない。尿酸は昔からある項目で、そんなに高くはないと思いますし、普通の採血と

同じ量ででき、項目がちょっと増えるだけなんです。血糖値が高いという市町村であればぜひ今後考えていただければよろしいと思います。

③□弁当の日について

(会 長) 弁当の日について事務局より説明をお願いします。

(事務局) 弁当の日についての説明

(会 長) 弁当の日について、ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。

(委 員) このアンケートはお子さんも書かれたんですか。当日会場にお子さんはみえましたか。

(事務局) 連れて来られた方はいらっしゃいますが、アンケートは大人の方に書いていただいています。

(委 員) 例えばこれを学校でやりたい場合にこの講演を子どもたちが聞いていたら、あの中に自分も参加したいという想いがあつたのではないかと。アンケートを見ると親の立場からのアンケートで、実際にこの弁当の日を学校でやりましようとなつた時にもう一度この講演を子どもたちに聞かせないといったい何のことだろうというような。この内容をどのように子どもたちに伝えようと思つていらっしゃいますか。

(事務局) 学校からの反応にもよりますけども、やはり弁当の日を実施しようとしたら、お子さん抜きでは考えられないですし、保護者でも多くの保護者に知っていただく必要があるので、やると言っていた学校で竹下先生をお呼びして講演会を開催し、そういう考え方を広めた上で、実施する方法を考えています。

(委 員) 私も行きたかつたんですけども、友達も15人位誘つてみたんですが、私たち子育て世代、核家族が多くて、子どもがいて出られないっていうのがほとんどの理由でした。もし素晴らしい講演があるのでしたら、託児を設けていただいて、聞けたらと思います。

④□その他

(委 員) 11月に毎年調理師会で取り組んでいる味覚の授業というのを、今年は明科の明南小学校で行いました。5年生ということで2クラスだったんですけど、安曇野調理師会の会員11名が甘いとかしょっぱいとかいう講義を最初に1時間半ほどして、甘い物にはどういう物があるか、しょっぱい物にはどういう物があるかっていうお話をし、生徒さんからお聞きします。その後4～5人位ずつ班に分けてもらって、ラタトゥーユ、野菜料理を作りました。ピーマンとかトマトとか普段食べられないっていう子たちも食べられたという意見を聞いて、和気あいあいと我々も楽しい授業を毎年しています。今年で4年目になりますけども、堀金小学校をスタートに豊科、穂高南小学校、今年は明科ということで、安曇野市中の小学校を回る予定です。今後とも続けていければということと、11月28日に、毎年長野県のプロの料理人の料理コンクールというのがありまして、今年安曇野が当番ということでスイス村のサンモリッツで行います。プロの料理人たちも地産地消ということで、地元の食材を使ったものを必ずコンクールの料理に入れなさいという課題の基に今回220品程、長野の料理学校の生徒さんたちもお弁当を課題に150位。お弁当の中に地産地消の材料を使って考えなさいということで、出品していただきました。最高の賞は知事賞ということでFMでも流していただいたり、TVにも来ていただいて我々も取り組んでいます。いくらかでも地産地消ということで地域の素材、それから塩分の取り過ぎとか、外食だとどうしても取り過ぎてしまう部分があるので、我々飲食店も減塩の部分でも取り組んでいますので、活動の一環ということでお話をしました。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に企画財政部まちづくり推進課へ提出してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。